

教科「芸術」

科目「書道Ⅱ」

(3年次)

単位数	1単位
担当者	森谷 美和
教科書	自作テキスト
副教材等	学習プリント、作品手本等

【1】科目の目標

- ・書道における表現と鑑賞の創造的な活動を通して、書を愛好する心情を育てる。
- ・書に親しむ活動を通して感性を高め、書の文化や伝統についての理解を深める。
- ・様々な場面に対応できる書写能力を育てながら、主体的に自己を表現する能力を高める。

【2】科目の内容と進め方

1学期：漢字の書の臨書（楷書・行書）、2学期：漢字の書の臨書（行書）、漢字仮名交じりの書の創作 3学期：仮名の書の臨書

【3】学習形態

書道室で授業を行う。作品の制作を行いながら、作品の背景について一斉、グループで学習を行う。

【4】学習上の留意点

「漢字の書・仮名の書」では、様々な古典を鑑賞し、その中から調べ学習をしてみたいと考える古典を選択し、理解があるのかを考え、何をどのように調べる必要があるのかを考え、実践してみる。「漢字仮名交じりの書」では、目的や用途に応じた書表現をするために、効果的な技能を身につける。

【5】評価の方法と評価の観点

① 評価の観点

- 1 書への関心・意欲・態度： 「漢字の書・仮名の書」を通して、多様な書法を意欲的、主体的に学び、古典の美と価値を感じ取ることができたか。「漢字仮名交じりの書」では、主体的に表現する能力を高め、実用的な表現や芸術的な表現を積極的に身につけられたか。
- 2 書表現の構想と工夫： 感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し表現できたか。感性や鑑賞能力を高めるための工夫はできたか。
- 3 創造的な書表現の技能： 目的や用途に応じた書表現をするために、効果的な表現の技能を身につけられたか。選択した古典の時代性や精神性について理解を深められたか。
- 4 鑑賞の能力： 書の美の多様性、書が生活の中で果たしている役割、文化や伝統を理解し、その良さや美しさを深く味わえたか。自身や他者の作品を客観的に観察し、その特質を的確にとらえ、自己の創作活動に生かすことができたか。

② 評価の方法

- ・授業での学習活動の様子、作品への取り組み状況から、主体的に学習しようとする態度を評価する。
- ・毎時間評価シートで学習の振り返りを行うことで、次時への取り組みにつながれるかを評価する。
- ・作品の添削を通して、技能を身につけられたかを評価する。

【6】その他

なし